

日台稲門会

ニュースレター-2025 年春号 (5 月発行)



発行所：日台稲門会
会報・NL 編集委員会
office@nittai-toumon.com
発行・編集責任者： 根本 宏児



台湾「桃園神社」に今も多数の参拝客 撮影：吉村剛史氏

ご挨拶

根本宏児 会長

新緑の候、皆さま如何お過ごしでしょうか。
平素より日台稲門会の活動に対し、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
今年も日台稲門会の行事が始まる時期となりました。
3月には早川友久講師をお迎えし、春の講演会を開催することが出来ました。
懇親会には、白井元総長も参加して頂き、盛大に開催出来ました。この場を借りて御礼申し上げます。
また新しい会員も増えてきており、是非台湾を通じて皆さんとの絆を深めていきたいと考えております。
6月14日には、当会の定期総会を開催予定で、同日開催の記念講演会には前中国大使の垂秀夫様をお迎えし、講演頂く予定にしております。
是非会員の皆様には積極的にご参加頂き、交流の場を広げて頂きたいと考えておりますので、引き続きご支援の程よろしくお願いいたします。



吉村剛史の台湾便り

「外交部フェロー」となって、今年の初めから台北を拠点に研究活動を進めている、当会会友でジャーナリストの吉村剛史さんから当会宛てに便りが届きました。その1年の研究期間中、便りはまた続けて送ってくれるそうです。

【吉村剛史の台湾便り】第1回 「10年ひとむかし」とはいふけれど…

「いずれ日本は台湾の後塵を拝し、その助力を必要とする時代がくる」

2011年から14年まで産経新聞台北支局長を務め、帰任後は各方面で企画された講演会でこのような展望を述べてきた。聴衆の大多数は誇張表現だとして聞き流しただろうが、記憶力の良い方はいらるもので、近ごろ当時の講演を引き合いに「ご指摘の通りになりました」と声をかけられることが増えた。

失われた30年とよくいわれるが、IMF統計では2024年の日本人一人当たり名目GDPランキングは39位。スペインやブルネイ、スロベニア、そして台湾(37位)にも抜かれ、前年34位から5ランクダウンだ。韓国(33位)にはすでに前年に抜かれている。筆者はありがたくも日台稲門会などの後ろ盾で、台湾・外交部が主体の2025フェローに選ばれ、今年1月から国立政治大学を立脚点に日台関係の変化を研究しているが、最初に直面した変化は台湾の物価の高さ、円安の影響だ。

10年前は両替所で1万円が4000台湾元になったが今は2000元。スマートホンも、台北駅前の自宅マンションで使う生活用品も一時帰国の際にそろえる方が節約になるとに気づき、事実そのようにしたが、日本では銀座の高級鮨店でも地元百円ショップでも周囲は台湾語ばかり。「安い日本」を同じく台湾から「訪日」する立場で改めて実感させられた。

9連休だった今年の春節休暇も、台湾の友人らは挙って日本に向かったため、筆者も同様に一時帰国した。台湾全島がカラになる印象だったからだ。逆に台湾を訪問する日本人は減少し各地直航便の維持は日本側の利用頻度向上にかかっている。



「外交部フェロー」の歓迎会で
林佳龍外交部長と吉村剛史氏
(向かって左)

日本の下請け工場から、いまや先端半導体やその他AI、サイバーセキュリティ分野などで日本を支える立場になった台湾。個人GDPの逆転は、民の元気の指標でもある。この変化を受け止め、日本がどのように対応していくかが今後の国際社会における立ち位置を決める重要な分岐点となるだろう。そのような主題で以後も台湾の日常風景を切り取っていきたい。

(よしむらたけし=ジャーナリスト、外交部フェロー、
元産経新聞台北支局長)

吉村さんの桃園神社に関する記事がネットメディアに掲載されました。

「神様強制送還」の後も神事が続く台湾「桃園神社」に今も多数の参拝客。
日台関係の変化が背景か | Business Insider Japan

QRコード
↓



日台稲門会春季講演会〈早川友久氏〉

日時： 2025年3月15日
会場： 会議場(大学周辺)

講演者： はやかわともひさ 早川 友久 (李登輝元大統領秘書)

演題： 総統とわたし
——「アジアの哲人」李登輝の一番近くにいた
日本人秘書の8年間——

季講演会で、李登輝元大統領の秘書として活躍された早川友久氏が講演されました。早川氏は、早稲田大学人間科学部卒。台北稲門会幹事長を務める。

学生時代の台湾旅行で偶然、日本と台湾の関係の深さに興味をもち、その後、李登輝元大統領の秘書となり、その経験を通じて、日本と台湾の歴史的関係やリーダーシップのあり方を学んだ。そして日台関係の重要性と信頼の構築について、具体的な事象を取り上げながら意見を述べた。さらに日本が国際社会でとるべき方策についても自身の考えを述べた。

詳細は、6月の会報に記載予定です。

(編集部 記)

『陳さんと勝太郎』上映・講演

主催者： 東京台湾の会
日 時： 2025 年 4 月 26 日（土）13：30～16：30
場 所： 中野区役所 1F ナカノバ
講演者： 陳韋辰

戦前、警察官として台東
縣成功鎮に派遣された
菅宮勝太郎の生きざまに
感動した陳韋辰氏が、当
時勝太郎の下で働いてい
た人々をインタビューし
て詳細をまとめた。

その記録を映画として完
成させたのが、小川英郎
監督の『陳さんと勝太郎』
である。

映画を鑑賞したあと、
陳韋辰氏の講演があった。



菅宮勝太郎は、1907 年に新港（現在の台東縣成功鎮）に警察官として赴任したが、戦後もそこに残り、一生を終えた。1969 年に成功鎮で生まれた陳氏は、子供のころ、病気になると注射を打たれた町の病院が大嫌いだった。そのせいで大人になってもその病院を避けて通るほどだったが、偶然、その病院（高安醫院）がかつての勝太郎の自宅だったことを知り、興味をもち勝太郎の生涯を調べることとした。当初は、なんの手がかりもなかったが、太郎の下で働いた 9 人の元使用人と知り合い、そこから勝太郎の情報を入手することができた。

陳氏によると、勝太郎は貧乏な使用人（多くは原住民）を分け隔てなく接して、彼らに教育をほどこして、彼らの将来に灯をともした。彼等 9 人は、成功鎮と台東市を結ぶ 11 号線沿いの出身であったことから、『ロマンチック街道 11 号線と勝太郎』というテーマで彼らのその後を調べた。勝太郎が施した教育により学校の校長先生や役人になった者もいた。彼等一人一人にインタビューすると彼等から出て来たのは、勝太郎に対する感謝の言葉しかなかった。彼らは、勝太郎から受けた恩を忘れずに恩を返す、英語で言えば pay it forward（善の循環）を心に刻んで生きてきた。たとえば、勝太郎の子孫が成功鎮にある勝太郎の墓参りで来台したときにも、みんなで出迎えて勝太郎から受けた恩を伝えた。

話は変わるが、台湾駐在時代に中山北路にあるリージェント台北の横に不法建築の一角があった。そこには戦後中国から入ってきた人たちがたくさん暮らしており、その場所が戦前日本人墓地だったこともあり、お墓がトイレの便器の跨木（またぎ）として使われたり、鳥居が建物の補強材として使われていた。日本人からしたら罰当たり以外の何物でもなかった。建物が取り壊された後、鳥居だけがぼつんとそばらく立っていたが、その光景は今でも覚えている。

私のような者からすると、日本人の墓を戦後も大切にしてくれた成功鎮の人々に感謝以外の言葉はないと思っている。日々、勝太郎から受けた恩を忘れなかった成功鎮の人たち。子孫が来台した時も当時を思い出しながらみんな涙を流した。今でも勝太郎を親のように思っていると・・・。

ある人は、勝太郎と同じ警察官（役人）になった。学校の校長先生になった人もいた。その人は、言葉を発せず、ずっと勝太郎の墓を見続けていたが、表情から、『あなたのお蔭で今の私がある。ありがとうございます』と言っていることがわかったと陳氏は話していた。

貧しい原住民の使用人に与えてくれたものは忘れない。まして自腹で教育させ自分たちの人生までも変えさせてくれた勝太郎への恩を一生忘れないとみんな言っていたと陳氏は述べた。

勝太郎亡き後に子息文作氏が出兵し、主不在で女性たちしかいなくなった自宅で家族を必死で守ってくれた使用人（当時少年）に対して、文作氏の感謝の気持ちは、手紙 3 ページにわたってびっしりと書かれていた。それが、菅宮家と使用人との絆を示していると陳氏は言っていた。

陳氏は、信念をもって 8 年かけて丹念に調査した。調査した当時、まったく分からなかった情報が身近にいた一人がその人だと分かったと、次の情報につながってゆく。その苦労は簡単ではなかったと思われる。話しているうちに陳氏はだんだん感情が溢れてきて涙声となり、その思いが講演会場にいる聞き手にも伝わっていることがはっきりわかった。

9 名の使用人の中には 81 歳の高齢者もあり、勝太郎が住んでいた当時の家々と住民の名前を一人一人教えてくれて、非常に助かったと陳氏は話していた。その方は、勝太郎のご子息一家が戦後日本へ帰還する時に、港まで行きたかったのだが、見送りに行ったら国民党から睨まれることがわかっていたため、家族の反対もあり見送りに行けなかった。そのことが今でも悔やんでも悔やんでも悔やみきれない。申し訳なかったと勝太郎の子孫につたえてほしいと陳氏に頼んだそうである。いかに菅宮家族と使用人のつながり（絆）が強かったかを示すエピソードである。

まさに感動溢れる講演だった。陳氏の情熱がひしひしと伝わって来た。以前（2001 年）杉原千畝の命のビザで生き延び、その後シカゴマーカンタイル取引所など金融先物市場を創設したレオ・メラメド氏の講演を聴いたことがあったが、今回、その時の感動を思い出した。非常にいい講演だった。陳氏の信念を記録映画として残した小川英郎監督（台湾ウオッチャーでもある）にも感謝したい気持ちだった。

（編集部 記）

陳韋辰（チェン・ウェイチェン）

1969 年生まれ（56 歳）。台東県成功市で海産食品事業に従事、2023 年に（財）日本交流協会台湾事務所より表彰を受ける。

小川英郎（おがわ ひでお）

映画監督。日台稲門会幹事長も務める。

投稿

■ 日本好きが多い台湾、しかし「哈日族」は減ったのか？

日本台湾交流協会による『台湾における対日世論調査』の第8回の結果がこの3月末に発表された。

それによると、「台湾を除き、あなたの最も好きな国（地域）はどこですか（一つのみ）」という問いへの回答では、なんと76%の人が「日本」と答えたという。2位の「韓国」が4%だから、ダントツの1位だ。

この調査が始まって以来「日本」はずっと第1位を続けているが、それまでの最高だった前回の60%から16%も上乘せし、伸び率としては25%を超える驚くべき数字となっている。この調査が日本側によるものだと知られていて、台湾側が日本にサービスしてくれているのでは？と疑いたくなるほどだ。

「台湾に最も影響を与えている国（地域）はどこですか（一つのみ）」という問いでは「アメリカ」（48%）に1位を譲っているものの、「日本」（30%）は2位。

「海外旅行する場合、どこへ行きたいですか（一つ選択）」という問いでは「日本」が1位で68%、2位の「ヨーロッパ」が11%と、これまたダントツだ。

ありがたいことに、これほど台湾は日本へ関心を寄せてくれているのだ。

しかし一方、こんな調査結果もある。国際交流基金による海外の日本語教育の現状調査で台湾の日本語学習者数を見ると、2015年度が約22万人、18年度が約17万人、そして21年度が約14万4000人と、しだいに減っているのだ。23年に結果発表が行われた21年度の調査が現時点での最新だ。

では、「日本大好き族」などとも訳される「哈日族」はどうなのか？「哈日族」なら日本語を学ぼうとするだろう。とすれば、日本が好きといっても、「哈日族」といえるほど関心が高い台湾の人は少なくなりつつあるのではあるまいか。

台湾で日本語学習者が減っているのは、少子化が進んだことや、21年度についていえばコロナの影響や、そして英語学習へのシフトなどが原因と考えられているが、「哈日族」

の減少も考えられるのだろうか？

「哈日族」という言葉の生みの親で、台湾での日本旅行のインフルエンサーである哈日杏子さんにそのあたりを聞いてみた。

——最近はいが便利で、観光やショッピングなら役立つ翻訳ソフトもたくさん。それに台湾には日本情報があふれていて、観光なら台湾人は日本人より詳しいくらい。日本へ行くのが好きなそんな若い人は、日本語も現地で実践的に覚えたり、YouTube動画などで独学したりする人も多い。何度も日本に行くというなら、ちゃんとした所で日本語を学ばなくても、じゅうぶんに楽しめるってわけ。

なるほど。いまの「哈日族」は、AI翻訳やネットの活用 に長けているということだろうか。（梶山憲一 記）

■ 故森永卓郎氏の記事を読んで

2月1日に産経新聞の『話の群像』に森永卓郎氏が載っていて驚いた。1月28日に亡くなったばかりだったからである。読んでみて、興味を惹かれたのは、森永氏は子供の頃、父親の海外赴任に伴って行った現地校でいじめにあったという箇所であった。

私も子供をインターナショナルスクールに通わせた経験があったため、他人事とは思えなかった。私は、子供が自分のように外国人に対して劣等感を持たないようにいきなり小学校1年からインターナショナルスクールへ入れた。

入学1か月後にいきなり学校から呼び出しを受けた。ボスニアから来たクラスメイトの女の子は優秀なのに前の子はビリから数番目だ。なぜできない？できなかったら1年生をもう一度やることになるぞと学年主任の女史。私は、

「冗談じゃない、たった5歳の子どもに英語やフランス語、アラビア語など分かるわけがない。ボスニア語の字体はアルファベット、息子の日本語の字体は全然違う。ヨーロッパから来た子供とうちの子供を比較するな」と。あまりに強い口調だったため、女史は苦笑いした。オーストラリア出身の女史もわかっているのだ。ただ、学校の方針を無視できないため、父兄を呼んだのだ。アラブの子どもは弱い者いじめがすごい。息子も言葉が出来なかったためか、最初はいつもいじめられたある日、家に帰ってきたら、頭がチョークの粉でパサパサになっていた。誰がやった？と聞いたら、エジプト人の子どもだと。やり返せと言

ったが、「だって、なんて言ってもいいかわかんないだもの」と。反論できる言語レベルでなかったのである。アラブの子どもは弱い子に対して無意識に（悪気なく）いじめる。それでも学校を嫌がらず、通い続けた。しばらくして、夜中にベッドから突然立ち上がって、「That's not fair!」など寝言を言うようになった。寝言のほとんどはいじめられた時の反論だった。そんな寝言を繰り返しているうちに、だんだんコミュニケーション力がついていったようで、或る時、息子と学校に行ったら、学校に着くや否やいきなり一人で校長室に行って英語で話し始めた。え？あいつ、英語が出来るんだと驚いた。無事（？）落第することなく、4年生を終了したが、日本語の読み書きがまったくできないので、今度は帰国後の日本の学校をどうするか悩んだ。幸い、大学の教育学部付属小学校帰国子女クラスを見つけた。同級生はたった6名。まるでアブダビ（UAE）の日本人学校（日系企業が日本政府に申請して設立した請願日本人学校）のように山の分校の雰囲気。和気あいあいだった。みんな帰国子女だからいじめは当然ない。そこで2年半みっちり日本語を勉強して中学になれた。そんなこんなで言語や外国人に対して劣等感をもったり、トラウマになることはなかった。ただ、あこがれもない。これが今の帰国子女か。

（橋本紀明 記）

最近の新聞から

・日本法務省は省令改正で5月より戸籍国籍欄に「台湾」表示可能に（産経 2025/2/17）

・米国国務省は、公式ウェブサイトで掲載している米台関係を紹介する文章を更新し、「台湾独立を指示しない」との記述を削除した。（毎日 2025/2/19）

・台湾は、台湾の重要科学技術の流出防止のため、中国の国防7子と交流を禁止した。

（国防7子；北京航空航天大学、北京理工大、西北工業大、南京航空航天大学、南京理工大、ハルビン工業大、ハルビン工程大）
（産経 2025/3/6）

・台湾の行政院政策顧問に自衛隊統合幕僚長（制服組トップ）を務めた岩崎茂氏（72）が就任した。（2000年に金美齡氏（当時台湾籍）が総統府政策顧問（2006年制度廃止）

に就任したことがあった）（産経 2025/3/22）

・台湾の政権中枢にも中国スパイ浸透
総統府元顧問ら5人摘発 （産経 2025/4/17）

・台湾 広がる野党罷免運動

台湾で最大野党・国民党の立法委員に対する過去最大規模の罷免（リコール）運動が展開されている。理由は、立法院の調査権拡充などを織り込んだ権限強化法を成立させたり、政権が提出した予算案を削減・凍結したりしていること。罷免は夏に行われる予定。（毎日 2025/4/22）

垂前駐中国日本大使関連（過去）

・尖閣沖漁船衝突事件（2009年9月7日）での船長釈放（9月24日）は、直人首相（当時）が指示と発言。（2024/2/18 産経）

・台湾有事が今すぐに起きない理由、①現状の軍事バランスからして、時がたてばたつほど中国の有利になるため、すぐに何かをする理由がない。②中国経済が悪化しており、何かを起こすと外資が引き上げると中国経済は大変なことになること、③歴史上、今ほど国際社会が台湾に対する理解や支持をしている時代はないため、台湾も中国に口実を与えるようなことはしない。（2024/2/23 毎日）

事務局から

■2025 年度総会及び講演会

2025 年 6 月 14 日（土）

詳細は、ホームページとメールでお知らせします。

総会記念講演会の講師について

6月14日に行われる当会の総会記念講演会の講師は、2023年12月まで駐中国日本大使を務めた垂秀夫（たるみ・ひでお）氏です。垂氏は大阪生まれで京都大学を卒業して外務省に入省、在中国日本大使館で書記官、日本台湾交流協会台北事務所勤務、大臣官房長などを経て駐中国大使となりました。大使としては「中国当局が警戒する人物」ともいわれ注目を浴びました。23年に退官、現在は立命館大学教授、中国問題研究家として活躍中です。また24年には日台関係に功績があったとして、台湾から「大綬景星勳章」を受けました。記念講演会に参加をご希望の方は、当会のホームページ（下記）にある記念講演会の案内からリンクしている申し込みフォームからお申し込みください。

■新入会者紹介(広谷光紗 幹事)

(入会順、敬称略)

12月から4月までに入会された方3名を紹介します。

・渡邊雅司、田中伶、永森利彦

■Facebookグループ「日台稲門会」ご利用のお勧め (西本誠 事務局長)

※グループURL:

<https://www.facebook.com/groups/nittai.toumon>

日台稲門会では、情報発信ツールとしての下記「サイト」に加えて、幹事会有志を「管理人」とした「Webサロン」として、Facebookグループ「日台稲門会」を運用中です。日台稲門会関係者(会員・会友・OB・etc...)の交流を目的としておりますので、会員・会友の皆様によるご投稿をお待ちしています！

管理人代表 西本 誠

<https://www.facebook.com/makoto.nishimoto/>

記

公式HP <http://nittai-toumonkai.com/>

FBページ <https://www.facebook.com/nittaitomonkai/>



日台稲門会グループ



管理人代表プロフィール



公式HP



FB ページ

編集後記

ニュースレターを編集していた時に、面白い逸話が産経新聞(4月18日)に載っていた。日露戦争の講和交渉で日本代表を務めた小村寿太郎は、フランス語もできるのにまったくそのそぶりも見せなかった。小村は英語しかできないと思っていたロシアのウイッテは交渉中、フランス語で身内と打ち合わせを行っていた。小村からしたら相手の会話が丸見えだった。私もそんな経験を台湾でした。日本の常務を連れて台湾の大手電機会社の部長と交渉した。常務は日本語で私と話し、それを台湾人スタッフが通訳する。相手は、国語(華語)しか使わなかった。しかし、交渉が終わった後、完璧な日本語で当方に話し始めた。しまった、こちらの打ち合わせ(日本語)がすべてばれていたと真っ青になった。それ以降、台湾の人は、日本語が完全に理解できるという前提で交渉するようにした。台湾の”小村寿太郎”は賢かった。(橋)